

# NT

NISSEKI TOKYO

2025  
Autumn  
Vol.45

特集

## 「平和」と「戦争」

～過去を見つめ、未来を描く



## 04 れっどくろす NEWS &amp; TOPICS

## 06 特集 「平和」と「戦争」 ～過去を見つめ、未来を描く

08 [インタビュー]

戦場カメラマン

渡部 陽一 さん



12 「平和」と「戦争」の軌跡

14 戦争の記憶を継承するデジタルアーカイブ



## 16 Hospital Referral

武蔵野赤十字病院／大森赤十字病院／東京かつしか赤十字母子医療センター

## 19 献血 NEWS

## 20 福祉施設 NEWS

赤十字子供の家／武蔵野赤十字保育園

## 21 国際 NEWS

## 22 行け！レポーター オカモト★ 日赤とつげきレポ —vol.39 東京都ビューティーケア赤十字奉仕団編—

## 23 NT information

## 24 赤十字Supporters

## 25 寄付方法のご紹介

## 26 プレゼント

## 27 令和6年度活動報告

電子ブック版「NT」のご紹介  
NTは電子ブックでもご覧いただけます。  
ぜひこちらからもアクセスください！



ストーリー選択動画であなたの「防災力」が分かる。

首都直下地震  
10の選択

10choices.jp



はじめまして！「首都直下地震 10の選択」の主人公、ジャックだよ。  
何気ない日常に起きた、まさかの大震災。  
気がつくと、僕は大好きなパパを見失って、ひとりぼっちになってしまったんだ…  
このストーリー選択動画「首都直下地震 10の選択」では、動画を視聴しながら  
僕に代わって各設問で選択肢をひとつ選んでいくよ！  
**試されるのは君の「防災力」。**  
新しい仲間との出会いや発見を通して、  
防災に関する正しい知識を身に付けてほしいな。

## Story

犬のジャックは大好きなパパと散歩中に被災。気がつくとひとりぼっちで、パパはどこにもいません。  
家に帰るため、そして大好きなパパに会うため、ジャックは「10の選択」をしなければなりません。  
果たしてあなたは、ジャックを家族の元に導けるでしょうか。

## ストーリー選択動画の進め方

## ▶ 次にどう行動するか？ 選択してください

短い動画の最後、あなたは選択肢のうちいずれかひとつを選ぶよう求められます。想定しているのは大規模災害。刻々と変わる状況下で、あなたは決断しなくてはならないのです。

## ▶ 選択により結末が変わる「マルチエンディング」

選択によってエンディングが変わる「マルチエンディング(マルチエンド)」の動画です。どんな結末になるかはあなた次第。ぜひ、幸せなエンディングを目指してください。



30年以内に70%の確率で発生するといわれている首都直下地震。  
災害による被害を軽減するには日頃からの備えが大切です。  
その被害想定を知り、自分で、家族でできることを考えるきっかけにしてみませんか？





奉仕団同士でノウハウ共有！  
携帯トイレ備蓄普及講習会を開催

経験談を交えたレクチャーに真剣に聞き入る参加者

6月30日、中央区赤十字奉仕団が「災害時トイレ問題における携帯トイレ備蓄普及講習会」を開催。講師には、日頃から地域で積極的に携帯トイレの備蓄普及活動を行っている立川市赤十字奉仕団を迎え、取り組み事例の紹介と実演を交えた説明が行われました。実演練習では質問が飛び交い、理解を深めるとともに、活動を展開する実践力を養う機会となりました。

令和7年度第1回  
東京都支部評議員会を開催

評議員会は支部の重要な業務について審議する機関

6月10日、東京都支部において令和7年度第1回評議員会が開催され、栗岡祥一副支部長をはじめ、監査委員、評議員など40人が出席しました。評議員会は支部の赤十字会員などの中から選出された評議員で構成。都支部及び都内6つの赤十字施設の令和6年度事業報告及び歳入歳出決算が承認されたほか、日赤が行う災害時のトイレ問題啓発の取り組みを紹介しました。

地域×大学×日赤  
防災セミナーを開催

6月9日、帝京平成大学中野キャンパスにて薬学部学生167人を対象とした防災セミナーを開催しました。「災害図上訓練（DIG）」「ひなんじょたいけん」のグループワークなどを実施し、参加者は真剣な眼差しで取り組みました。当日は中野区の職員や地域の防災士も見学。地域と大学に密接な関係性ができ、災害時に活躍する学生が増えてくれると心強いです。



地域の防災マップを作成する「災害図上訓練」

航空機内でいのちを守るため  
救急法基礎講習を実施

航空機内特有の状況を再認識したという声も

6月17日、JAL労働組合客乗支部赤十字奉仕団を対象とした赤十字救急法基礎講習を実施し、客室乗務員の団員15人が参加しました。客室乗務員OBでもある指導員が講習を担当。機内のさまざまな状況を想定し、活発に議論が交わされました。受講者からは「正しい知識や技術を学んで自信がついた。学びを体現できるように努めたい」と感想が寄せられました。

JRC国際交流プログラム  
派遣メンバーの結団式を実施

ジャカルタへの派遣メンバー

今年度から新たに開始する「青少年赤十字（JRC）東京・ジャカルタ交流プログラム」への参加者が決定。6月15日に結団式を行いました。派遣が決まった中高生12人のメンバーは自己紹介とともにJRC活動について発表し、交流を深めました。献血、福祉、救急法などさまざまな赤十字事業について学びを深め、7月27日～8月2日の7日間派遣されました。

救護ボランティア養成セミナーに  
幅広い世代が参加！

担架の使用方法をボランティアから学ぶ参加者

日赤では「ボランティアはボランティアが育てる」との考えのもと、平時や災害時に活動するボランティアを養成しています。5月17日に開催されたセミナーにはさまざまな年代の22人が参加。救護資機材の組み立て、救護所の設営などを体験しました。参加者からは「実際にボランティアをしている方の話を聞き、災害時を想定しながら実技を行った」などの声がありました。

## 子どもを水の事故から守る！ 小中学校での「着衣泳」講習



着衣のままプールへ入り「浮いて待て」を実践（児童）



空のペットボトルを活用して浮き身を取る参加者（教員）

衣服や靴を身に着けたまま、海や川、用水路などに落ちる事故が毎年多く発生しています。東京都支部では、夏休みを迎える前の時期に、都内の小学校などを会場として「着衣泳」講習を実施しています。講習では、着衣のまま溺れてしまった場合の対処法などを体験しながら学びます。

7月2日には児童への事故防止の指導方法伝達を目的として、教員30人を対象に「着衣泳」講習を葛飾区立東金町小学校で実施。参加者は着衣のままプールへ入り、思うように身体が動かせないことを体験したほか、落水した際に呼吸を確保する姿勢や身近な浮き具の使い方、溺れている人の陸上からの救助方法などを学びました。今後、講習に参加した教員自らが児童・生徒を指導できるようになり、子どもの水の事故防止に繋がることを期待しています。

災害時にも活用できる！  
中高生がハンドケアを体験

6月24日、東京都ヒューティケア赤十字奉仕団が順天中学校・高等学校でハンドケア講習を実施しました。参加した生徒はホットタオル作り、ハンドケア、レクリエーション（体操）を体験。「温かいタオルはリラックスできる」と感想が寄せられました。ホットタオルやハンドケアは災害時でも大活躍。声掛けなどコミュニケーションの取り方も実習の中で学びました。



ハンドケアの実習に熱心に取り組む生徒たち

いざというときに備えて  
災害時の救護要員を養成

無線を用いた演習に取り組む参加者

災害時に被災地で活動するうえで必要な基礎知識や技術を習得する「災害救護基礎研修」。毎年開催しており、今年は東京都内の赤十字関連施設から51人の職員が参加。2日間にわたる研修では、被災地で実際に使用する通信機器やシステムの演習を行ったほか、発災直後から被災地での活動を経て帰還するまでのシミュレーションなどにグループで取り組みました。





## 特集

# 「平和」と「戦争」

～過去を見つめ、未来を描く



あなたは、「平和」と聞いて  
どんなことをイメージしますか？

それは、争いのない社会でしょうか。  
それとも、心から自由に自分を表現できる社会でしょうか。  
あるいは、貧困、ジェンダーなど  
不平等や差別がない社会でしょうか。

1945年に第二次世界大戦が終結して今年で80年。  
時代の流れとともに戦後生まれの人の割合が増加し、  
日本では現在9割\*近くが「戦争を知らない世代」となっています。

\*総務省統計局「人口推計—2025年（令和7年）5月報—」

この節目の機会に、  
改めて過去を見つめ、現在までの道のりを辿り、  
「平和」とは何か、一緒に考えてみませんか。





戦場カメラマンとして活動を始めたばかりの頃



アフガニスタンにて、取材を行う渡部さん

日本にいながらでも、  
平和のためにできることはあります。  
それは、世界を知ること、  
世界とつながることです。



Profile

1972年生まれ。静岡県富士市出身。明治学院大学 法学部 法律学科卒業。学生時代から世界の紛争地域を専門に取材を続ける。戦場の悲劇、そこで暮らす人々の生きた声に耳を傾け、極限の状況に立たされる家族の絆を見据える。イラク戦争では米軍従軍 (EMBED) 取材を経験。これまでの主な取材地はイラク戦争のほかルワンダ内戦、コンボ紛争、チェチェン紛争、ソマリア内戦、アフガニスタン紛争、コロンビア左翼ゲリラ解放戦線、ダルフル紛争、パレスチナ紛争など。

戦場カメラマン

渡部

Yoichi  
Watanabe

陽一  
さん

ゆっくりとした独特の語り口で知られる戦場カメラマン、渡部陽一さん。大学在学中に戦場の撮影を始め、戦場カメラマンとしてのキャリアは33年目を迎えます。世界の戦場を取材してきた渡部さんに、平和とは何か、平和のために何が必要なのかを伺いました。

—— 大学生の時にアフリカに行ったことが、戦場カメラマンになるきっかけになったそうですね。

大学1年生の時、生物学の講義で、今なお狩猟生活を送るムブティ族がアフリカ中央部にいることを知りました。直接会って話してみたいという気持ちが高まり、すぐに格安航空券を買い、リュックに着替えや小型カメラを詰めて、一人でジャングルに飛び込んでいきました。ちなみに、この時が私の初めての海外旅行でした。

いろいろな国を経由して、目指すザイール（現在のコンゴ民主共和国）に着きました。ムブティ族の住む地域までは、ヒッチハイクでジャングルを走るトラックに乗せてもらって向かいました。ある日トラックで移動していたところ、銃やナタを持ち、体にマシンガンの弾を巻き付けた少年兵たちが集落を襲撃しているところに遭遇しました。トラックの運転手が「伏せろ！」と叫んだ瞬間、少年たちが銃を乱射してきました。トラッ

クの積荷は奪われ、僕も殴られて怪我をし、カメラや靴、現金を盗られました。

失意の思いで帰国した後に、その襲撃はルワンダ内戦が周辺に飛び火したものだっことを知りました。情報を持たずに現地に飛び込んでしまったことで、紛争の最前線に遭遇してしまったのです。無知な自分を悔やむとともに、襲われた集落の子どもたちが泣きながら助けを求めている姿が繰り返し思い出されました。何か自分ができることはないかと模索する中で、子どもの時から好きだったカメラ、写真を使えば、子どもたちの状況を伝えることができるのではと考えました。こうして、戦場の子どもたちの状況や思いを伝えていく戦場カメラマンという仕事がかげび上がってきました。

—— ザイールでの子どもたちとの出会いが、戦場カメラマンとしての根本にあるんですね。

アルバイトでお金を貯めて、またザイールに向かいました。襲わ

れて怪我をした僕を助けてくれた集落の人たちや、トラックやバイクに乗せてくれた人たちに会いに行かなくてはと思ったのです。写真を撮って恩返ししたい。その思いが原動力となり、20歳から5年ほどは、ザイールやルワンダなどアフリカを集中的に取材しました。この頃の実体験が、戦場カメラマンの原点です。

戦争の犠牲者は  
いつも子どもたち

—— ルワンダ内戦にはじまり、イラク戦争、アフガニスタン紛争、ウクライナ戦争、ガザ軍事侵攻など130カ国以上で取材を続けていらっしゃるようです。長年の活動において、大変だったことはどのようなことでしょうか。

33年間の活動を振り返って強く感じるのは、戦場カメラマンとして記録を残していくことの難しさや重要性です。私は常に、戦場や紛争地の取材で世界中を駆け回っています。フリーのカメラマンとして戦場報道を続けていくのは、資金や人脈づくり、情報管理、メディアとの交渉など、あらゆる面で大変なことばかりです。でも、



## • GALLERIES •

## 渡部陽一さんが撮影した戦場



アフガニスタンに展開したアメリカ軍前線部隊



さまざまな物が奪われる戦争（イラク）



イスラム過激派

棺を運ぶウクライナの兵士たち

しんどいからと長期間休んでしま  
うと、日々変わっていく世界の動  
きについていけなくなってしまう。  
気持ちや動きに隙をつくらず、自  
分のリズムで続けていくこと。難  
しいけれど、意味のあることなの  
だと考えています。

——戦場取材を通して、伝えたい  
メッセージはどのようなことですか。

戦場は悲しみや残酷性に満ちて  
いる——それは事実です。でも、  
ガザやイスラエルの人たちも、そ  
してウクライナやシリアの人たち

も、みんな自分たちが生まれ育っ  
た場所に誇りをもっていて、家族  
や地域の人たちに対して深い愛情  
や優しさを注いでいます。戦場で  
あっても、そこに暮らす家族の日  
常や想いは、日本の皆さんと変わ  
らないのです。

誰も望んでいないけれども、戦  
争が起こってしまう。戦争が起こ  
れば、子どもたちやその家族、地  
域の住民は簡単に被害されます。  
家族を守るために、武器を取らざ  
るを得ない子どもたちがいる。戦

争によって、教育の機会を奪われ  
る子どもたちがいる。戦争の犠牲  
者は、いつも子どもたちなのです。  
そんな戦地の日常を、少しでも知っ  
てもらえればと、泣いている子ど  
もたちの置かれた状況に気付いて  
もらえたらと、願っています。

——渡部さんは、「平和」とはど  
のようなものだとお考えですか。

戦場で暮らす人々に「幸せと  
は？」と聞くと、多くの国で「や  
りたいことを自由にやること」  
という答えが返ってきます。世界

時代とともに変わる  
戦争のあり方

——30年以上にわたり、戦地や紛  
争地の取材を続けてこられました  
が、昔と今の戦争に違いを感じま  
すか？

30年前の戦争は、互いの国の兵  
士が武器を取って命を奪い合うも

のでした。ところが現代の戦場で  
は、前線に人間の兵士はいません。  
武器を操るロボットやドローンを  
何千キロ、何万キロも離れた場所  
でコントロールして、ターゲット  
を殺害します。敵が見えない戦争  
になってきているのです。もう一  
つ感じるのが、情報管理に優れた  
方が、戦局を優位に整えていくこ  
とです。現在の戦争の目的は「自  
国ファースト」で、他の地域から  
利益を吸い上げることです。その  
ためには、はつきりと勝敗をつけ  
る必要はありません。優位に情報  
を管理した側が、極限まで利益を  
吸い上げるのです。

戦場報道のあり方も、この30年  
間で大きく変わりました。携帯電  
話の普及によって、前線にカメラ  
マンがいなくても、そこに暮らす  
人々や避難者、支援者が自分の携  
帯電話で写真や動画を撮り、状況  
をライブで伝えられるようになり  
ました。こうした写真や動画は、  
世界を動かす大きな力になりま  
す。しかしながら同時に、フェイ  
ク映像やフェイク写真も次々に  
出てきて、ファクトチェックが欠  
かなくなっています。情報戦にお  
いても、フェイクとファクトの駆  
け引きが行われているのです。

——世界の戦場を取材してきた渡  
部さんから見て、現在の日本の状  
況はどのように感じますか。

日本は今年、戦後80年の節目を  
迎えました。この80年間、日本  
では戦争がありませんでした。こ  
れは世界がリスペクトすること  
であり、憧れであり、世界中が求  
める幸せの条件が日本で体现され  
ていることの証でもあります。

世界的に紛争や戦争が続く中、  
日本にできることは、日本が得意  
としている分野を発信することだ  
と思います。その一つが、災害対  
応力でしょう。度重なる自然災害  
に直面して鍛えられた危機管理や  
情報管理のスキル、インフラの整  
備や生活再建などのノウハウは、  
戦争が終わった後の復興時に求め  
られる力です。家が倒壊し、ライ  
フラインが絶たれた時に、どのよ  
うに対応すれば良いのか。日本の  
対応力や実践力は、世界から求め  
られています。

平和をあきらめず  
対話を続けよう

——今後の活動の展望を教えてください。

僕には、夢があります。それは



渡部さんが取材で使うカメラ。カメラの反射が相手の  
センサーにキャッチされるのを防ぐために、ボディにマス  
キングテープを貼っている。革のストラップは、イラク  
戦争で何ヶ月も生活を共にしたイラク兵士にもらったベ  
ルトだそう。「いつも『そのベルトいいね』って言って  
いたら、別れる時にくれました。20年ほど使っています」



紛争地では、赤十字の存在の大きさを感じることも多  
いと話す。「赤十字のネットワークや移動手段、情報  
力は、現地の人々の大きな力であり希望です。戦地  
では、敵味方の区別なく『そこに赤十字がいれば大  
丈夫』という気持ちを持てる存在なのです。僕自身も、  
情報共有などで何度も助けてもらいました」

ためにどのような行動ができるの  
でしょうか。読者へのメッセージ  
をお願いします。

日本にいながらでも、平和のた  
めにできることはあります。それ  
は、世界を知ること、世界とつな  
がることです。世界で起きている  
ことに関心をもち、心を寄せるこ  
とは、世界を変えるきっかけにな  
るはずです。

この夢は、実現不可能ではない  
と思っています。これまでに戦争  
がなくなった地域もたくさんあり  
ますから、戦争は止められるはず  
です。モデルケースとなる国の情  
報を共有し、対話を続けて落とし  
どころを探る。もう駄目だと思っ  
た状況でも、あきらめず交渉を継続  
していくことが大切です。

——私たち一人ひとり、平和の

越える大きな力になるはずですよ。



# 「平和」と「戦争」の軌跡

人類が引き起こしてきた戦争の歴史と、人々の幸せを守るために奮闘したノーベル平和賞受賞者たちの活動を振り返り、「平和」と「戦争」について考えてみましょう。

## 戦争・武力紛争



日清戦争での救護活動  
©日本赤十字社

日清戦争

日露戦争

## 第一次世界大戦（1914年～1918年）



フランス北東部シャンパーニュの最前線で応急手当を受ける兵士  
©ICRC archives

人類史上初の世界大戦。ヨーロッパを主戦場に総力戦が展開されました。

1914年～1916年  
受賞者なし  
1917年  
大戦中の人道活動によって**赤十字国際委員会（ICRC）**が受賞

## 第二次世界大戦（1939年～1945年）



原爆投下後の広島  
(所蔵・提供：広島平和記念資料館)

60カ国以上が参戦し、民間人を含む5千万～8千万人の死者が出たといわれています。

1939年～1943年  
受賞者なし  
1944年  
大戦中の人道活動によって**赤十字国際委員会（ICRC）**が受賞

### TOPIC

### 「平和」ってどんな状態？

平和学の第一人者であるノルウェーのヨハン・ガルトゥング博士は、「消極的平和」と「積極的平和」の概念を提唱。後者を目指すべきだと訴えました。

#### 消極的平和

「平和」＝戦争がない状態と捉える。

#### 積極的平和

「平和」＝戦争の原因となりうる構造的暴力（貧困、格差、差別など）がない状態と捉える。

## 東西冷戦（1947年頃～1989年）



南ベトナムの街中を歩く少女（1972年）  
©ICRC

カシミール紛争

中東紛争

朝鮮戦争

ベトナム戦争

東ティモール紛争

アメリカを中心とする資本主義陣営とソ連を中心とする社会主義陣営が40年以上も対立。両国は直接武力で争わないものの、世界中で多くの代理戦争や代理紛争が勃発しました。

私には夢がある。それはいつの日か、私の4人の小さな子どもたちが、肌の色ではなく、人格そのものによって評価される国に生きられるようになることだ。



マーティン・ルーサー・キング・ジュニア  
(1964年\*、アメリカ)  
©Nobel Foundation, Public domain, via Wikimedia Commons

黒人差別撤廃を目指し、基本的人権を求める公民権運動を指導。非暴力による闘争に人生を捧げました。

もし貧しい人々が飢え死にするとしたら、それは神がその人々を愛していないからではなく、あなたが、そして私が与えなかったからです。



マザー・テレサ  
(1979年\*、インド)  
©Kingkongphoto & www.celebrity-photos.com from Laurel Maryland, USA, CC BY-SA 2.0, via Wikimedia Commons

病人や孤児、貧しい人々への長年の奉仕活動が称えられました。

## 21世紀の戦争（2001年～）

今も世界各地で続く戦争や紛争。背景には、宗教的な対立、民族の迫害、テロリズム、領土や資源の争奪問題など複雑な事情が絡んでいます。

同時多発テロ

イラク戦争

シリア内戦

ウクライナ人道危機

イスラエル・ガザ人道危機



夜明けを待ち被害の確認に向かうパレスチナ赤新月社のスタッフ  
©PRCS

理論を捨て去り、一介の人間に戻って考えよう。



ムハマド・ユヌス  
(2006年\*、バングラデシュ)  
©University of Salford Press Office, CC BY 2.0, via Wikimedia Commons

貧困に苦しむ農村女性を対象に、無担保小口貸付を行う「マイクロ・クレジット」を発案し、人生のチャンスを広げました。

ひとりの子ども、ひとりの教師、一本のペン、一冊の本が、世界を変えるのです。



マララ・ユスフザイ  
(2014年\*、パキスタン)  
©DFID-UK Department for International Development, CC BY 2.0, via Wikimedia Commons

武装勢力タリバンに屈せず、女性と子どもが教育を受ける権利を訴え、最年少の17歳で受賞しました。

## ノーベル平和賞（\*は受賞年）



アンリー・デュナン  
(1901年\*、スイス)

イタリア統一戦争で悲惨な戦場を目撃したことをきっかけに、傷病者救護活動を行う人道支援団体・**赤十字**を創設。

第1回受賞者  
傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い生命は救われなければならない。





# 戦争の記憶を継承する デジタルアーカイブ



東京大学大学院 教授  
渡邊 英徳さん

1974年生まれ。東京大学大学院 情報学環 教授。東京理科大学理工学部建築学科卒業（卒業設計賞受賞）、筑波大学大学院システム情報工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント、首都大学東京システムデザイン学部准教授を経て、2018年より現職。ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所客員研究員、京都大学地域研究統合情報センター客員准教授などを歴任。

戦争体験者から直接体験を聞くことが困難になる中、私たちは戦争の記憶をどのように継承していけるのでしょうか。広島や長崎の被爆地や東日本大震災などの被災地をテーマに、デジタルアーカイブ<sup>\*1</sup>を用いて記憶の継承に取り組み渡邊英徳教授の研究室を訪ね、戦争の記憶とデジタルアーカイブの可能性について聞きました。

## ストックされた記憶が「今」の時空に合流する

「ヒロシマ・アーカイブ」にアクセスすると、広島地図上にたくさん人の顔写真が表示され、クリックするとその人の証言が表示されます（左ページ写真）。こうした仕組みについて、渡邊教授は多面的デジタルアーカイブと呼んでいます。「一般的なデジタルアーカイブは、一つの資料を追っているうちに、他の資料との関連がわからなくなってしまう。でも、僕らのマップは最初から全ての資料の関連が可視化されています」（渡邊教授・以下文中の発

言は同教授による）。

一目で直感的に把握できるデジタルアーカイブは、見る側の感情を揺さぶります。

「地球から広島へズームし、被爆当時の地図から現代の街並みの3D画面に変わること、被爆時から現在への連続性が感じられます。また顔のわかる個人の証言を読み、映像を見ることが、共感することができます。最先端技術の活用によって、ストックされていた記録や記憶が、僕らが生きている世界の時空間に合流してくれるのです」。

渡邊教授がデジタルアーカイブに取り組み始めたのは2009年のこと。地球温暖化の影響で沈み

## 地域住民や高校生と一緒につくっていく

2010年制作の長崎、11年の広島、12年の沖縄の戦争アーカイブは、すべて地域からの依頼で、住民や高校生と一緒に制作しています。

「アーカイブは更新し続けていて、高校生が中心となって集めた動画証言などが加わっています。第二次世界大戦を経験した人はどんどん



2024年8月に開催されたMinecraftワークショップ「教育版マイクラフトで長崎の歴史を学ぼう」。体験者の話を聞いた子どもたちは、原爆投下前の暮らしについて調べて、当時の街をつくりあげた



「ヒロシマ・アーカイブ」の画面。現代の広島市の市街地に、証言者の顔写真と原爆を表す赤い球が表示されている



研究室にあるマルチディスプレイシステム「Liquid Galaxy」。渡邊研究室ではデジタルアーカイブの持続可能な活動のために2023年に、「戦争・災害のデジタルアーカイブ基金」を立ち上げ、寄付を募っている

（問い合わせ：kikin.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp）

## 未来を紡ぐためのプラットフォームとして

渡邊教授は「東日本大震災アーカイブ」や「ウクライナ衛星画像マップ」「ガザ地区3Dアーカイブ」など、リアルタイムで起きている災害や戦争のデジタルアーカイブ

制作も行っています。「発生した時代は異なりますが、記憶の継承という目的は変わりません。ウクライナやガザの写真はAIをフル活用して3D化していますが、その時代の最新のテクノロジーを使うことで、よりリアルに記録し、見る人の心にも届くようになります」。

渡邊教授は戦前のモノクロ写真のAIによるカラー化・動画化にも取り組んでいます。テクノロジーの進化は記憶の継承に貢献すると同時に、簡単にフェイクニュースがつくれるといった面もあります。「AIを諸刃の剣としないため

には、つくりあげる表現自体が魅力的であることや、マイクラフトを使ったワークショップのように楽しく取り組めることが必要だと思っています。そうした切り口こそが、フェイクニュースや偽の世界を押し返す決め手になるのではないのでしょうか」。

\*1 文化的・歴史的に価値のある資料を、デジタルデータとして保管・公開・活用する仕組みのこと。図書館や美術館のコレクションや、地方自治体がもつ資料が対象となる

\*2 ツバル・ビジョナリーゼーション・プロジェクト。長年ツバルを撮影してきた写真家・遠藤秀氏の依頼により制作された、現在進行形の海上見や気候変動を記録・発信するデジタルアーカイブ

\*3 プレイヤーが自由にブロックを配置して構造物や世界を創造するサンドボックス仮想環境のゲーム

### 渡邊教授が制作に携わった

## 戦争関連のデジタルアーカイブ

### ●ナガサキ・アーカイブ（2010年）

[https://n.mapping.jp/index\\_jp.html](https://n.mapping.jp/index_jp.html)

長崎原爆資料館、高校1万人署名活動実行委員会や地元メディアが所有している文字証言、ビデオ証言、写真資料が閲覧できる。

### ●ヒロシマ・アーカイブ（2011年）

[https://hiroshima.mapping.jp/index\\_jp.html](https://hiroshima.mapping.jp/index_jp.html)

広島平和記念資料館、広島女学院同窓会、八王子原爆被爆者の会、中国新聞社をはじめとする提供元から得られた約170件の証言資料、約150点の写真資料が閲覧できる。

### ●沖縄平和学習アーカイブ（2012年）

<https://okinawa.archiving.jp>

沖縄県平和祈念資料館と沖縄県公文書館が所蔵する文字証言、ビデオ証言と沖縄県写真、資料地図を閲覧できる。

### ●ガザ地区3Dアーカイブ（2024年）

<https://gaza.archiving.jp/index.html>

アルジャジーラ・メディア・ネットワークからガザ地区のデータ提供を受け、戦災の実像を伝える最先端のVRコンテンツ。



### 「動物たちがみた戦争」

渡邊 英徳／貴志 俊彦／中島 みゆき  
（光文社新書）

「毎日戦中写真アーカイブ」6万点の中から、渡邊教授がカラー化を行い軍馬や軍用犬、伝書鳩や南国の珍しい動物など、人を助け、癒やし、ときに人の犠牲となった動物の写真をピックアップ。歴史学者の貴志俊彦氏が背景を解説する。







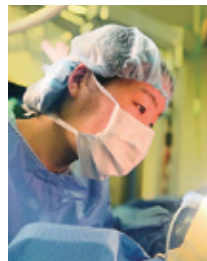
## JRC OMORI HOSPITAL

### 大森赤十字病院

- 所在地 〒143-8527 東京都大田区中央4-30-1
- 連絡先 Tel 03-3775-3111 (代表)
- 休診日 土曜・日曜・祝日・年末年始(急患は随時)
- 病床数 340床(一般322床、ICU・CCU 6床、HCU 12床)

当院は、2025 年 4 月から形成外科の診療を開始しました。形成外科の診療内容をご案内するとともに、力を入れていきたい分野である乳房再建についてご紹介します。

### 形成外科副部長 井上 真梨子 Mariko Inoue



#### 当院で対応可能な形成外科診療

形成外科の診療開始にともない、小さな手術から大きな手術まで対応可能となりました。どの診療科に行ったらいいかわからない疾患を治療できることもあります。お気軽にご相談ください。

#### 〈診療内容の例〉

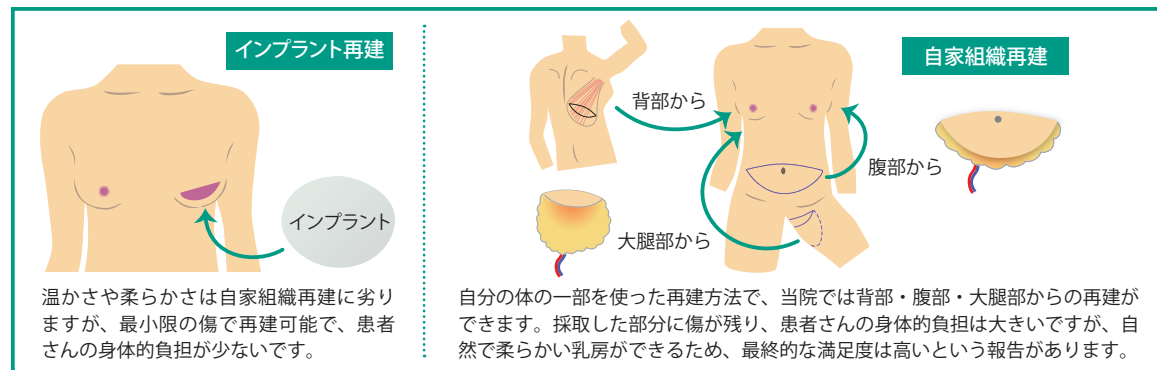
- ・皮膚皮下腫瘍(しこり)、血管腫(あざ)
- ・皮膚悪性腫瘍
- ・目立つきずあと(肥厚性瘢痕、ケロイド、瘢痕拘縮)
- ・熱傷
- ・顔面外傷、顔面骨折
- ・眼瞼下垂症(まぶたの下がり)
- ・爪の変形
- ・へその変形(臍突出症など)
- ・乳房関連の変形(陥没乳頭、副乳など)
- ・耳の変形(先天性耳瘻孔、副耳、埋没耳など)
- ・毛が関連する疾患(禿瘡、毛巣洞など)
- ・難治性潰瘍、褥瘡(床ずれ)
- ・乳房再建手術
- ・他科と連携した再建手術

#### 乳房再建の実際

乳房再建とは乳がんの手術で喪失した乳房のふくらみを再建する手術です。アメリカや韓国では半数以上の患者さんが乳房再建を選択するのに対し、日本では認知度が低いのが現状です。日本では乳房再建を選択する方は10%程度で、とても少数です。乳房は女性にとって大切な臓器の一つであり、乳房のふくらみを失うことで精神的につらい思いをする患者さんは少なくありません。私たち形成外科医は、乳房再建を通して喪失感を和らげ、患者さんの\*QOL向上の一助となることを目指して診療を行っています。

乳房再建には、インプラント再建(下図左)、自家組織再建(下図右)、脂肪注入による再建(自費治療)といった方法があり、患者さんの希望やライフスタイル、乳房の形や体型を総合的に考慮して方法を決定します。乳腺外科と連携を取りながら、患者さん一人ひとりに寄り添い診療してまいります。

\*QOL: Quality of Lifeの略で、生活の質や人生の満足度を表す



## 形成外科の診療を開始しました

患者さんの想いに応える乳房再建

Hospital Referral



## JRC MUSASHINO HOSPITAL

### 武蔵野赤十字病院

- 所在地 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1
- 連絡先 Tel 0422-32-3111 (代表)
- 休診日 土曜、日曜、祝日、5月1日(赤十字創立記念日)、年末年始
- 病床数 611床(一般528床、ICU 8床、HCU 22床、GICU 6床、SCU 9床、NICU 6床、GCU 12床、感染症20床)

武蔵野赤十字病院では、出産後のお母さんと赤ちゃんの健やかなスタートを支えるため、宿泊型の産後ケア「アイルーム」を提供しています。当院の理念である「愛の病院」から名付けたこのプログラムの内容をご紹介します。

### 助産師 森 亜紀子 Akiko Mori



## 産後ケア「アイルーム」

安心して子育てができる場所

「アイルーム」では、周産期センターの助産師が常駐し、一人ひとりに寄り添った授乳や育児の相談をお受けするほか、赤ちゃんをお預かりしてお母さんが心身ともにゆつくりと休息できる環境を整えています。慣れない育児に不安を感じやすいこの時期に、安心して自分のペースで育児に向き合える時間と空間づくりを心がけています。

#### 不安や疑問を 専門医師に相談

産後ケアをご利用いただく際には、新生児科の専門医師が診察を行い、赤ちゃんの健康状態を丁寧に確認します。お母さんのちょっとした不安や疑問にもお応えでき、ご家族にとつても心強いサポートとなっています。心配な点を解消し、安心して赤ちゃんとお過ごしことができます。

さらに、当院では赤ちゃんの安全を守るができるよう、新生児蘇生法(NCPR)のシミュレーショントレーニングを定期的に実施しています。

施しています。医師・助産師が連携して、実践に即した訓練を重ねることで、赤ちゃんのいのちを守るための知識と技術を常にアップデートし、万全の体制を整えていますので安心して赤ちゃんを預けていただけます。

#### お気軽にご相談・ご利用を

今後は、先天性股関節脱臼の早期発見のために\*スクリーニングを行い、スムーズに治療につなげる体制を整えるなど、赤ちゃんの健康を守るための施策を充実させていく予定です。赤ちゃんの将来を見据えたケアの充実を図り、お母さんが安心して子育てができる地域づくりに貢献していきたいと考えています。

「アイルーム」は、出産後のお母さんご家族にとつて安心して子育てを始めるための場所を目指しています。これから出産を迎える方、育児に不安を感じている方も、どうぞお気軽にご相談ください。皆様のご利用を心よりお待ちしております。

\*症状がなくても、早期に疾患を見つけるために検査を行うこと



「アイルーム」プログラムで宿泊いただくお部屋



お母さんと赤ちゃんの絆を大切に、一緒に子育てをサポート

Hospital Referral



# 献血者の皆さんへ「ありがとう」

～輸血を受けた患者さんのご家族から届いた、感謝のメッセージをご紹介します～

BLOOD  
PROGRAM  
NEWS

## 「主人を失う恐怖と毎日戦っていた私にとって、輸血は希望の一つでした」

ペンネーム N.Hさん

私の主人は39才で肝細胞がんになりました。まだ子どもも小さく死ぬわけにいかないと出来る限りの治療をしましたが、がんの進行が早く一気に肝機能・腎機能が低下してしまいました。

体調が悪く病院に行っても出来ることがほとんどない中で、輸血をすると主人が「少し楽になった」と笑顔を見せてくれました。「どなたかが献血してくださったおかげで主人の命が今日も繋がった……」。主人を失うかもしれないという恐怖と毎日戦っていた私にとって、輸血は希望の一つでした。1年の壮絶な闘病の末、主人は40才で亡くなりました。

私は献血をすることが恩返しになると思い、献血ルームに通い出しました。しかし忙しい毎日に追われてなかなか行けない時もあります。でも今この時も、主人がそうだったように、病気と戦っているたくさんの方がいる。献血は少しでもその人たちの役に立つために出来ることだと思うのです。

私がこのメッセージを書こうと思ったのは、自分への戒めでもあります。私も主人が亡くなるまで献血をしたことがありませんでした。周りに献血をしている友達もいましたが、注射が苦手な私は今ひとつやる気にならなかったのです。でも献血ルームはオシャレな所も多く、スタッフの皆さんも親切で、痛みに弱いと伝えると申し訳ないほど配慮してもらえます。また、血液検査の結果がすぐにもらえるので、自分の健康管理にも役立ちます。私の目標は良い血液を保ち、ずっと献血できる体でいることです。あまり構えずに、人のためばかりでなく自分のためにもなると考え、献血をしてみたいです。



### 「ありがとうの声」をご紹介します！

東京都赤十字血液センターのホームページでは「ありがとうの声」をご紹介します。これまでにいただいたメッセージと、メッセージ応募フォームはこちらから！



### 献血のご予約はこちらから！

ラブラッド（献血 Web 会員サービス）またはお電話でご予約いただけます。皆さまのご協力をお待ちしています。

☎ 0120-30-6002

（平日 9 時～17 時 20 分）

献血 Web 会員サービス ラブラッド→



## JRC KATSUSHIKA PERINATAL CENTER

東京かつしか赤十字母子医療センター

■所在地 〒125-0051 東京都葛飾区新宿 3-7-1

■連絡先 Tel 03-5876-3511（代表）

■休診日 日曜、祝日、年末年始

■病床数 104床（産婦人科一般65床、MFICU 3床、NICU 12床、GCU 24床）

看護部看護係長  
助産師

山崎 香織

Kaori Yamasaki

小さく生まれた赤ちゃんにとって母乳は最適な栄養源。病気から守ってくれる“薬”のような役割も担っています。当院では、早産児のお母さんの心身に寄り添って母乳育児を支援するとともに、母乳バンクも活用して赤ちゃんの成長をサポートしています。

現在の日本では、約10人に1人が低出生体重児（2500g未満）として生まれています。中でも、1500g未満で生まれた赤ちゃんを極低出生体重児、1000g未満で生まれた赤ちゃんを超低出生体重児といいます。低出生体重児が生まれる主な理由は早産で、妊娠37週未満で生まれた赤ちゃんを早産児といいます。

### 早産児の母乳育児をサポート

極低出生体重児・超低出生体重児にとって、母乳は未熟な消化器官にも優しく、免疫力を高める成分が豊富に含まれています。特に、早産児を出産したお母さんの母乳には脂肪や免疫グロブリンが多く、腸の成熟を助ける成分も含まれています。母乳育児を成功させるためには、お母さんへの適切なサポートが不可欠です。母体に大きなストレスがかかるホルモンの分泌が抑制され、母乳の分泌に影響が出てしまいます。私たち助産師は、出産されたお母さんがリラックスして母乳育児に取り組め

るよう支援しています。また、新生児集中治療室（NICU）では、赤ちゃんとお母さんの触れ合いを大切にしながら、母乳分泌の促進に努めています。

### 状況に応じて母乳バンクも利用

早産で生まれた赤ちゃんのお母さんは、体調が整わなかったり、十分な母乳分泌が得られるまでに時間がかかったりするなど、さまざまな理由で自らの母乳を与えることが困難なケースが少なくありません。当院は今年度、母乳バンクの連携施設に登録しました。母乳バンクとは、ドナーから寄付された母乳を適切に処理・検査・保管し、主に1500g未満の低出生体重児に提供する仕組みです。まずは、お母さんの乳房ケアを十分に行い、母乳分泌が間に合わなかった時には母乳バンクを通じてドナーミルクをあげられるように、ご家族への支援を準備中です。小さな命が健やかに育つために、今後もお母さんと赤ちゃんのサポートに取り組んでいきます。



綿棒で母乳をあげている様子

### 早産・極低出生体重児の経腸栄養に関する提言

（日本小児科学会、2019年）

1. 早産・極低出生体重児にとって自母乳は最適な栄養であり、NICUにおいても母乳育児を推奨し支援すべきである。
2. 自母乳が不足する場合や得られない場合、次の選択肢は認可された母乳バンクで低温殺菌されたドナーミルクである。
3. 将来的には、母乳と人乳由来の母乳強化で栄養するEHMD（Exclusive Human Milk-based Diet）が早産・極低出生体重児に与えられることが望ましい。

## 低出生体重児の母乳育児支援

小さな命を救うために

Hospital  
Referral



# 国際人道法は平和への道しるべ

～戦後80年の今だから注目したい「戦時の決まりごと」～

WORLD  
NEWS



空爆により数百人の命が奪われたガザの病院で空を仰ぐ女性  
©Mahmud Hams/AFP

歴史上の凄惨な出来事には共通の要素があります。それは、暴力を正当化し、犠牲者への共感を麻痺させ、拷問や虐待、殺人を合理化すること、命ある人間を人間として扱わず「非人間化」することです。そのため、戦時のルールには二つの大きな柱が存在します。①民間人や武器を持って戦っていない人を戦闘行為から守る。民間人の生活や命に直結する電気や水などのインフラを攻撃するもご法度です。②戦闘の手段や兵器を制限する。核兵器や地雷、クラスター弾など、無差別に大規模な被害をもたらす兵器や、戦

ウクライナやガザでの戦闘が日々ニュースで取り上げられていますが、そこにも暮らす人々の惨状を見聞きする中で、日本でも「国際人道法」という言葉を頻繁に耳にするようになりました。

## 人の道を外さないためのルール

争が終わってからも環境や人体に影響を与える兵器は使ってはけません。「国際人道法の守護者」と言われる赤十字国際委員会（ICRC）の目下の懸念は、紛争当事者がこうした人道法上の義務を無視、または自分たちの都合の良いように解釈して、破壊や妨害を正当化し、「人の道」から外れた行為がまかり通っていること。国際社会がそうした現実慣れ、無意識に容認している現状です。

## やりたい放題はダメ

紛争当事者が人道法を守ることは、会社員が社則やコンプライアンスを尊重し、スポーツ選手がルールに則って戦うこととなら変わりません。勝つための「やりたい放題」は許されないので。

ICRCが当事者に訴えることは、極めてシンプルです。病院や民間インフラを攻撃しないこと、住民が安全な場所に逃げられるようにすること、食料供給が途絶えないよう徹底すること、人道支援団体が援助物資を届けられるように便宜を図ること、などです。

例えば、原子力発電所や核施設が攻撃されて放射能が漏れたらどうなるのか。原爆投下や原発事故を経験している日本人には容易に想像がつくと思います。ICRCは紛争当事者に対して、「そうした戦闘手段は使わないでください」と話します。また、「捕虜は武器を持って戦



ICRCによる国際人道法の研修を受けるスーダン国軍  
©ICRC

える状況にないので、戦闘員としてではなく、一人の人間として扱ってください」と伝えます。家族と連絡が取れ、一日三回の食事ができ、暑さ寒さがしのげるよう当局に働きかけます。

今年は戦後80年。日本にとって戦争は過去のことですが、世界には今も戦火の中で「終戦」と「平和」を待ち望んでいる人たちがたくさんいます。戦後復興を遂げ、平和を享受している日本だからこそ、できる支援、響く言葉があると思います。この80年の節目に、日本の私たちに何ができるのか、考えを巡らせる機会にしてみればうれしいです。ぜひ身近な人と、今起きている紛争について語り合ってください。そして、戦禍に嘆き悲しむ人々がいる世界の現状に、どうか慣れないでください。

ICRC 駐日代表部広報統括官 眞壁仁美

## 武蔵野赤十字保育園

# 「シュシュジャカジャカ」は歯をみがく合言葉！



歯ブラシの使い方を練習！



かわいい歯に食べかすがついています



勇者ハミーが食べかすを退治！

武蔵野赤十字保育園では、「きちんと歯みがきしよう！」と3、4、5歳児に伝えるため歯みがき集会を行っています。今回は、4歳児の歯みがき集会の様子をお伝えします。集会では、おうちから自分の歯ブラシを持ってきて、歯みがきの練習を行いました。3歳児の時に練習したみがき方を覚えている園児もたくさんいました。また、虫歯にならないための5つのお約束を伝えました。

- 1 あまいものは、とくべつなときだけ
- 2 すききらいなく、たべよう
- 3 よくかもう
- 4 たべたらすぐに、はをみがこう
- 5 ていきけんしんをしてもらってね

## 勇者ハミーと一緒に、楽しく歯みがき！

その後は、歯についた食べかすを退治してくれる勇者ハミーが登場！子どもたちは歯の仮装をして、どうやったらうまく歯をみがけるか体験しました。勇者ハミーは、「シュシュ ジャカジャカ」を合言葉に、歯の仮装をした子どもたちについた食べかすを歯ブラシで退治してくれました。子どもたちは、楽しくお口の健康について学びました。

## 赤十字子供の家

# 児童養護施設の暮らし～日常を支える～

WELFARE  
FACILITY  
NEWS

児童養護施設は、入所している子どもたちにとって家庭の代替となる場所ですが、一般的な家庭とは違い、生活を共にする職員が日によって入れ替わり、似た境遇の子どもたちと一緒に生活するという特殊な環境です。一方で、毎日の生活は一般的な家庭とほとんど変わりません。朝起きて、着替え、朝食を食べ、幼稚園や学校に行って帰り、おやつを食べ、遊び、宿題をして、夕飯を食べ、お風呂に入り、団らんやくつろぎの時間を過ごし、眠ります。休日には出掛けたり旅行に行ったりすることもあります。

## 当たり前のやり取りや環境を大切に

児童養護施設では、生活の基盤を整え、安心・安定した生活を送ることができるよう、また経験を積み重ね自立に向かえるよう、日々の支援に努めています。そのためには、帰宅時に温かく「おかえり」と迎えたり、お部屋やお洋服を綺麗に保ったり、頑張った時は目一杯褒めたり、何気ないやり取りを続けることが大切だと考えています。

近年では、一つの居室に5、6人ほどの少人数で暮らす小舎制や、地域に借りた一軒家などで生活するグループホームがほとんどで、できる限り家庭に近い環境で生活しながら、より手厚い支援ができるように努めています。



赤十字子供の家とは…児童福祉法(第27条)に基づき、施設での保護養育が必要として東京都児童相談所から措置された子どもたちを預かる児童養護施設です



## 「レポーターオカモト★日赤とつげきレポ」掲載奉仕団の紹介

### 東京都ビューティーケア 赤十字奉仕団

結成年月日 | 平成14年4月15日

団員数 | 30人(令和7年4月時点)

#### 概要

ハンドケアなどの技術を生かしながら活動する赤十字奉仕団。東京ソラマチの10階にある献血ルームfeelにて毎月第2金曜日の午後に活動を実施\*するほか、特別養護老人ホームや障がい者施設でも活動をしている。他にも東京都内の青少年赤十字加盟校や地域で活動する赤十字奉仕団に対して、ホットケアやハンドケアなどの講習・普及を行っている。毎年1回ビューティーケア基礎講習会を開催し、新しい団員の募集にも積極的に取り組んでいる。

\*採血後はハンドケアの施術不可



献血前のリラックスタイム



順天中学校・高等学校の社会福祉部にホットケアなどの講習を行いました!

奉仕団のブログは  
こちらから!  
日々の活動報告などが  
掲載されています。



団員の声

私たちは、ホットケアやハンドケアなどを通して自分を労る時間を提供しています。ケアを受けた皆さんの気持ちよさそうな表情や、感謝の声が活動の励みです。新型コロナウイルス感染症の流行により活動を中止していた施設から再開の依頼が増え、今後はより活躍の場が広がります。また、ビューティーケアを青少年赤十字加盟校などに普及する活動にも力をいれていきたいです。家族のケアのための勉強や、社会とのつながりづくりなど、参加のきっかけはさまざま!一緒に活動してくれる仲間を大募集中です!

活動に興味を持たれた方は  
ぜひ下記まで  
お問い合わせください!

☎ 03-5273-6751  
✉ [volunteer@tokyo.jrc.or.jp](mailto:volunteer@tokyo.jrc.or.jp)  
担当:事業部 青少年・ボランティア課

赤十字はボランティアをはじめ、多くの人々の善意により支えられています。区市町村ごとで組織している「地域赤十字奉仕団」、大学生や35歳までの若者から成る「青年学生赤十字奉仕団」、専門技術や資格を持った人々による「特殊赤十字奉仕団」といったグループで活動しているボランティアと、個人で活動しているボランティアがいます。東京都支部では、年間を通じてボランティアを募集しています。あなたも赤十字の仲間になりませんか。

NT

NISSEKI TOKYO

Vol.45

2025年9月発行



PDF

バックナンバーも  
PDFや電子ブックで  
ご覧いただけます



電子ブック

■発行・編集・デザイン／日本赤十字社東京都支部  
〒169-8540 東京都新宿区大久保1-2-15 Tel:03-5273-6747(総務部企画財務課直通)

※本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断転写(コピー)、複製(転載)を禁じます  
※本誌に掲載されている情報は、発行に伴う情報収集時点での情報を含みます。  
その後の内容に変更が生じる場合もありますので、予めご了承ください

年3回発行(5月・9月・1月)

NTは、日本赤十字社東京都支部や都内の赤十字病院(日本赤十字社医療センターを除く)および献血ルーム・献血バスなどの献血会場で配布している(在庫がなくなり次第配布は終了します)ほか、公式サイトで公開しています。

ホームページ: <https://www.jrc.or.jp/chapter/tokyo/>



@redcrosstokyo



@nisseki\_tokyo



@nissekitokyo



@redcrosstokyo

### 設置(配布)協力者を募集します!

日赤東京都支部広報誌『NT』を会社や店舗などに設置、またはご友人など周りの方に配布していただける方を募集しています。

詳しくはこちら



URL

<https://www.jrc.or.jp/chapter/tokyo/about/topics/coop.html>







## 国内外で苦しむ人を救うため 日本赤十字社が行う人道支援活動は 皆さまのご寄付で行っています

### ●寄付の流れ



皆さまのご寄付で、支援が必要な方へ、このような物資をお届けしています



3,000円のご寄付

### 安眠セット(1人分)に

避難所などで身体を休めるために必要な、マット、枕、アイマスクなどが揃っています。



5,000円のご寄付

### 緊急セット(約4人分)に

マスク、ラジオ、懐中電灯、歯ブラシなど、避難先での生活にあると便利なアイテムが、収納されています。

### ●寄付の方法



### 郵便局・銀行の口座へのご寄付

郵便局(ゆうちょ銀行)や銀行などに、ご寄付専用口座を開設しております。



### クレジットカードでご寄付

Webサイトから、クレジットカードでご寄付いただけます。ご寄付の方法は、毎年・毎月・今回のみの3種類から選択できます。



### 金融機関の口座振替でご寄付

ご希望の口座から自動引落でご寄付いただけます。お引落は毎年・毎月から選択できます。



[ご寄付に関するお問い合わせ先]

日本赤十字社東京都支部

<https://www.jrc.or.jp/chapter/tokyo/>



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

東京都支部

〒169-8540 東京都新宿区大久保1-2-15  
TEL 03-5273-6743(平日9:00~17:30)

## 赤十字 Supporters

### 赤

十字と関わるきっかけは、2003年に中野区赤十字奉仕団の分団長になったことでした。

私が当時、地域の町会長を務めていたことから分団長になり、奉仕活動に参加するようになりました。中野区赤十字奉仕団は1952年に結成され、現在は14分団・団員1000人以上が活動しています。活動内容は防災訓練への参加、日帰りバスツアー研修、献血広報などです。

中野区赤十字奉仕団には災害救護・献血・広報・福祉・青少年の5部会があり、私は2006年に災害救護部長になりました。私にとって印象深い活動が、「中野救護フェスタ」です。毎年11月に開催しており、三角巾の使い方など災害時に役立つ応急手当の知識や技術を学ぶ場であるとともに、14分団の交流の場にもなっています。

2013年には中野区赤十字奉仕団の委員長を引き継ぎ、家族連れなど若い層へのアピールを意識して

高橋弘光さん

(赤十字奉仕団東京都支部委員会会長/中野区赤十字奉仕団委員長)

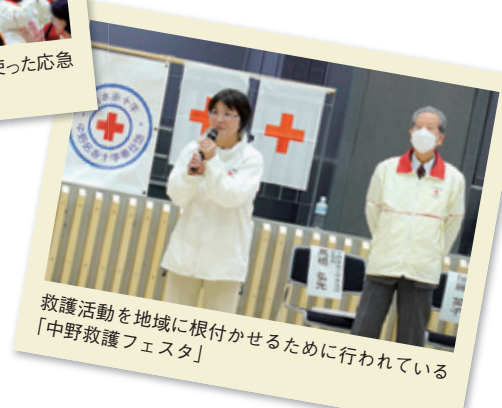
## 災害への備えの大切さを 若い世代にも伝えていきたい



「中野救護フェスタ」で、参加者に三角巾を使った応急手当を教える高橋さん



日帰りバスツアー見学では、血液センターや墨田区の本所防災館などに行きました。本所防災館は災害の体験学習施設としておすすめです



救護活動を地域に根付かせるために行われている「中野救護フェスタ」

活動しています。先日は中野区主催の「中野にぎわいフェスタ」に参加し、三角巾を使った応急手当や、携帯トイレの知識などをお伝えしました。また、赤十字の子ども用救護服とナース服の試着体験を行ったところ、お子さんに大好評でした。災害への備えが大切だと思っているのは、被災した経験があるからです。私は1941年生まれで、この年の12月に太平洋戦争が始まりました。生まれたのは東京ですが、戦争が激しくなるとともに父の故郷である福井に疎開し、戦後も4年ほど暮らしました。当時は地方でも食糧が不足していたので、田んぼでイナゴやザリガニを獲って食べたのを覚えています。疎開中は苦しいことが多かったですが、中でも1948年に発生した福井地震で、母と生まれたばかりの弟を亡くしたことはつらい記憶です。災害はいつ起こるか予測できませんし、平和も決して当たり前ではありません。私自身が実際に経験してきたからこそ、次の世代に伝えていけたらと思っています。

\*福井地震…1948年6月28日に発生。マグニチュード7.1、震度6を記録し、戦前から復興途上の福井に甚大な被害をもたらした。県内の死者は3782人、負傷者は2万1750人、全壊した家屋はおよそ3万5382戸に上った



# 私たちのジミチな活動は、 皆さまのご協力に支えられています。



救急法等の講習は477回実施し、17,323人が、日常生活の中で突然起こる病気やけがからのちと健康を守る知識と技術を学びました。また、新たに26人の指導員を養成しました。



災害時の被害軽減を図るため、自治会などの自主防災組織や法人、学校を対象に防災セミナーを95回実施し6,222人が受講しました。



児童・生徒が赤十字の精神に基づき、さまざまな活動を学校教育の中で展開している青少年赤十字。加盟校(園)数は638校(園)にのぼり、191,116人のメンバーそれぞれが社会貢献に向けて「気づき」「考え」「実行」しました。

地域奉仕団38団(14,588人)、青年学生赤十字奉仕団16団(569人)、特殊赤十字奉仕団18団(782人)が、都内各地域でさまざまな活動を実施。団の垣根を越え、災害時トイレ問題の普及に取り組んでいます。

令和6年は、能登半島地震をはじめ、全国各地で大雨や火災などによる自然災害が頻発した年でもありました。日本赤十字社は発災直後から被災地へ医療チームやこころのケアチームを派遣するとともに、自治体や赤十字ボランティアの皆さまと協力し、切れ目のない支援活動を行いました。

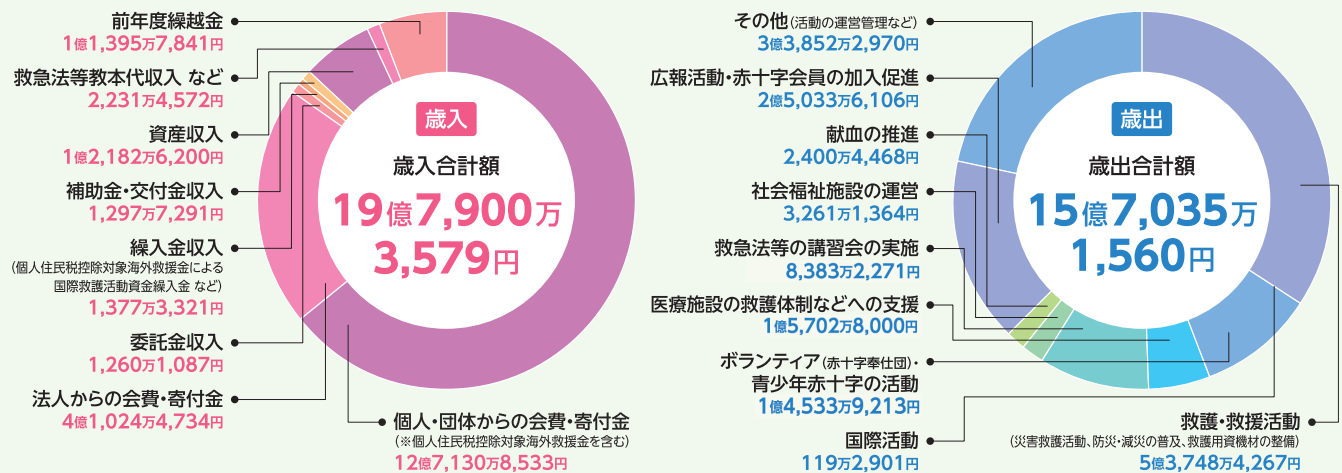
また、コロナ禍より開催を中止していた都内赤十字施設での救急法等の講習を再開したほか、夏休み期間中に小・中・高等学校の青少年赤十字メンバーを対象とした宿

泊型プログラム「リーダーシップ・トレーニング・センター」を5年ぶりに再開。学校の垣根を越えてメンバー同士が交流しながら学びを深めました。

引き続き、地域とのつながりをより密接で強固なものにするための活動に取り組むとともに、赤十字を支えてくださる皆さまと連携・協働しながら「人々が支え合う、安全・安心な社会」の形成を目指して事業を展開していきます。今後ともより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 令和6年度 東京都支部 一般会計歳入歳出 決算概要

皆さまからいただいた会費や寄付金を主な財源として実施した活動にかかる歳入歳出は以下のとおりです。  
大変多くのご協力をいただき、こころより感謝申し上げます。



注) 歳入歳出差引額の4億865万2,019円は、翌年度の救護・救援活動などのために繰り越しました



# Present



日本赤十字社東京都支部の協賛企業様からご提供いただいています。ご応募、お待ちしております！



**A. 1名様**  
サイン入り  
渡部陽一さん著『晴れ、そしてミサイル』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)  
ニュースやSNSではわからない、世界中を取材する戦場カメラマンが見てきた戦争の「本当」。写真や動画とともに、実際の戦争の姿や戦争が起きる理由、そして平和とはなにか、そのために私たちができることを一緒に考えていく作品。



**B. 10名様**  
フェミルテ「ふきとりフォーム」  
玉川衛材株式会社  
洗い流し不要。しゅわしゅわ泡で簡単スッカリ! デリケートなお肌の汚れやべたつき、においの元をスッカリ落とすふきとりフォームです。



**C. 15名様**  
923系「ドクターイエロー USB充電器1A」  
株式会社アーバン  
カッコいいのに、どこか可愛らしいドクターイエロー型のUSB ACアダプター。通電中はフロントライトが点灯し、臨場感があります。  
※充電には各機器に対応したUSB充電ケーブルが別途必要です



**D. 3名様**  
555ml 24本入り  
麒麟 午後の紅茶 おいしい無糖 香るレモン  
東京麒麟ビバレッジサービス株式会社  
茶葉本来の香りと豊かな旨み、クセのないすっきりとした後味で、レモンが爽やかに香る無糖紅茶。



**E. 3名様**  
500ml 24本入り  
麒麟 イミューズ グリーン  
東京麒麟ビバレッジサービス株式会社  
免疫ケアと1日分のビタミン(B1,B6,C)を手軽に補える、カラダを元気にする栄養補給飲料。



**F. 5名様**  
各1枚ずつ 2種セット  
「コトセン」ハートラちゃん」A5クリアファイル  
(大阪・関西万博 国際赤十字・赤新月運動館 販売グッズ)  
株式会社日赤サービス  
国際赤十字・赤新月運動館のデザインコンセプト「コトセン」とハートラちゃんをあしらった、環境配慮素材使用(再生プラ100%)のクリアファイル2種です。

## プレゼント応募方法

**WEBフォーム**または**はがき**でご応募ください。抽選でプレゼントが当たります! 締切は**2025年10月31日**必着。当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

※いただいた個人情報はプレゼントの発送および当支部からの連絡のみに使用します。お寄せいただいたご意見・ご感想は個人が特定できないよう配慮したうえで当支部が行う広報に活用させていただく場合があります  
※製造状況などによりプレゼントの内容が変わる場合もございます

## WEBフォーム

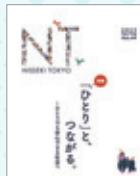


<https://forms.office.com/r/fmLkYs7nPZ>

## はがき

郵便はがきをご用意いただき、下記必要事項(①～⑮)を明記のうえ、所定の郵便料金の切手を貼ってご応募ください。  
※左の添付はがきからご応募されても抽選対象外となります  
①郵便番号 ②住所 ③お名前、フリガナ ④年齢 ⑤性別 ⑥メールアドレス ⑦本誌入手場所(左のはがき裏面参照) ⑧本誌への満足度(満足・普通・不満) ⑨本誌で良かった記事(3つまで) ⑩本誌のボリューム(多い・適切・少ない) ⑪本誌で興味を持てなかった記事(3つまで) ⑫本誌の感想 ⑬これまでNTを受け取った回数 ⑭今後取り上げほしいテーマ ⑮ご希望のプレゼント番号  
**応募先** 〒169-8540 東京都新宿区大久保1-2-15 日本赤十字社東京都支部 NT編集部あて

## 読者の声 (vol.44)



特集の山極さんのインタビューが最も印象に残りました。ゴリラと人間の共通点と差異、そこから現代人はなぜ孤独を感じるのかという分析が興味深いものでした。実生活で霊長類学の実感することはあまりないのですが、今回の「孤独」の問題をはじめとして、実際は社会と非常に密接に関わっている学問だという気付きを得ることができました。東京都・33歳・男性(akiba献血ルーム)

万博に赤十字バビリオンがあることを初めて知りました。ぜひ行って実際に見たいと思いました。  
東京都・51歳・女性(東京八重洲献血ルーム)

特集「ひとり」とつながる。は高齢化が進む日本で最大の課題だと思います。大変興味深く、よいテーマでした。 東京都・72歳・男性(巣鴨駅)

バックナンバーはこちら ▶ <https://nissekitokyo.actibookone.com>

※( )はNTの入手場所



# カラダとこころに効くレシピ

Vol.6



秋の行事といえば古来より楽しまれていたお月見があります。旧暦の8月15日の夜(十五夜)\*に見える月は1年のうちで最も美しい満月といわれ「中秋の名月」とも呼ばれます。天候に恵まれると日本のどの地域からも秋の夜空に浮かぶまんまるのお月さまを見ることができます。仕事や学校、子育てや家事など慌ただしい毎日を過ごすなか、穏やかな光を放つお月さまを眺めていると自然と心も癒やされます。たまにはほっとひと息ついて、秋の夜長を過ごしてはいかがでしょうか。

\*2025年は10月6日を指します

大人も子どもも  
作って食べて  
楽しめる!

## 秋の風物詩といえばお月見 ● 秋の夜長を楽しむレシピ♪



### 豆腐入り 白玉団子 (4人分)

**材料** .....

- 白玉粉 ..... 100g
- 絹ごし豆腐 ..... 100g
- 水 ..... 適量

**お好みで** 黒蜜、きなこ、あんこ、ごま など

### 作り方

1



ボウルに白玉粉と絹ごし豆腐を入れて混ぜる。

2



耳たぶの硬さになるように適宜水を足す。

3



一口大の大きさに丸める。

4



沸騰したお湯に入れる。団子が浮き上がってきたら、さらに2〜3分ゆでる。

5



冷たい水にとって粗熱を取る。

6



お好みで黒蜜、きなこ、あんこを添えたら完成!

白玉粉ではなく団子粉でも◎

**白玉粉または団子粉：絹ごし豆腐＝1：1**の割合で混ぜるのがポイント  
この比率を守れば、分量は作りやすい量でOK!

### Point! 1日冷蔵庫で保存しても「もちもち」

お団子は水で作るのが一般的ですが、絹ごし豆腐で作ると時間が経っても硬くならないもちもちのお団子になります。タンパク質も摂れて栄養価もアップ!

アレンジ  
レシピ

### 団子汁

団子が余ってしまったら汁物に入れて団子汁に! 丸くするのではなく少し平べったくすると食べやすいです。けんちん汁や豚汁にプラスしても◎



協力 東京かつしか赤十字母子医療センター 管理栄養士 和田晴香